

平成 21 年  
8 月 27 日

# 病害虫発生予報 9 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

## < 目 次 >

### ・ 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

サツマイモ：チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）	1
ナシ：ナシヒメシンクイ	1
果樹共通害虫：カメムシ類	2
抑制ピーマン：アザミウマ類	2
共通害虫：ハスモンヨトウ	3

【その他の病害虫】	3
ダイズ，ナシ，ブドウ，カキ，クリ，抑制トマト，抑制キュウリ，抑制ピーマン， 秋冬ネギ，夏秋ナス，共通害虫，アブラナ科野菜共通害虫	

### ・ 病害虫ミニ情報

他県で発生が確認され，問題となっている新病害虫について	6
-----------------------------	---

・ 今月の気象予報	8
-----------	---

・ テレホンサービス	8
------------	---

029(226)5321

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」  
<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

サツマイモ

1. チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）

【予報内容】

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

【予報の根拠】

8月下旬現在，被害葉率，発生地点率ともに平年並である。

【防除上注意すべき事項】

ナカジロシタバは，第3世代幼虫の被害が最も大きい。ナカジロシタバ第3世代幼虫の発生は，9月上旬頃からと予想される。老齢幼虫になると食害量が多くなるので，幼虫発生初期（つる先や上位葉に指先ほどの穴が開いた食害痕が点々と認められる時期）の防除に努める。薬剤散布の際は，幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

ナシ

1. ナシヒメシンクイ

【予報内容】

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	平年並～やや多い	県下全域

【予報の根拠】

8月下旬現在，被害果率は平年並である。

県予察ほ場（園芸研究所）に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺数は，平年よりやや多い。また，地区予察ほ場（笠間市，小美玉市，石岡市，土浦市）におけるフェロモントラップへの誘殺数は，土浦市で平年よりやや多く，他の3地点では平年並である。

【防除上注意すべき事項】

幸水，豊水で被害がみられた園では，9月上旬に晩生品種を対象とした薬剤散布を行う。その際，収穫前日数に十分注意する。

散布の際は10a当たり300ℓを目安に，散布圧および散布速度を調節し，縦横の井桁走行を行うなど，かけむらのないよう丁寧に行う。

被害果は，速やかに水に浸漬するか，土中深く埋める。

## 果樹共通害虫

### 1. カメムシ類

#### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

#### [ 予報の根拠 ]

8月第4半旬現在，予察灯（かすみがうら市）への果樹カメムシ類の誘殺数は，チャバネアオカメムシは平年並～やや多く，クサギカメムシは平年並である。

8月20日現在，生息地であるヒノキ林での果樹カメムシ類成虫（チャバネアオカメムシ，クサギカメムシ及びツヤアオカメムシ）の発生量が増加している。また，ヒノキ球果の吸汁痕数も増加しており，9月以降は主要な餌となるヒノキ球果の不足により，果樹園への飛来が平年よりやや多くなると予想される。

8月下旬現在，ナシ及びカキの被害果率は平年並であるが，一部でカメムシ類が多く飛来し被害果が出ているほ場も見られる。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

夜温が高いと活動が盛んになり，果樹園へ飛来するので，注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には，収穫前日数に十分注意して，薬剤防除を行う。

合成ピレスロイド系薬剤は，他の害虫の天敵類に及ぼす影響が大きいため多用は避ける。

薬剤防除は，カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

(8月25日発表の病害虫情報 No.10 参照)

## 抑制ピーマン

### 1. アザミウマ類

#### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い～多い	鹿行地域

#### [ 予報の根拠 ]

8月下旬現在，寄生花率，発生地点率ともに平年よりやや高い～高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か低いと予想され，特に発生を助長する条件ではない。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。なお，ミカンキイロアザミウマ，ヒラズハナアザミウマ等は黄化えそ病を媒介するので注意する。

薬剤は，薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

## 共通害虫

### 1. ハスモンヨトウ

#### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

#### [ 予報の根拠 ]

8月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや多い。

8月下旬現在，抑制キュウリでやや多い発生である。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

ほ場をよく観察し、幼虫の早期発見に努める。齢期が進むに従って防除効果が低下するため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

ダイズでは、白変葉の発生を防除の目安とする。

レタスやハクサイでは、結球への食害を防ぐため、結球前に防除を徹底する。

薬剤散布は、葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性ハスモンヨトウの出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置する。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ダイズ	べと病	発生量：やや多い	8月下旬現在，納豆小粒で発生が認められ，平年よりやや多い発生である。多発生ほ場では，防除を実施する。
	紫斑病	発生量：平年並	防除適期は開花 20 日後であるが，連続した降雨が続く場合は，開花 30 日後に追加防除を行う。 県内では，チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているためそれ以外の薬剤を使用し，2 回目の防除を行う際は系統の異なる薬剤を散布する。
	カメムシ類	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
ナシ	黒星病	発生量：多い	8月下旬現在，発病果率は平年より高い。発病の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。特に，徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ナシチビガ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ブドウ (露地巨峰)	褐斑病	発生量：多い	8月下旬現在，平年より多い発生である。発病の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。
	べと病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。発病の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
カキ	炭そ病	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
クリ	炭そ病 (実炭そ病)	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
	モモノゴマダ ラノメイガ	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
抑制トマト	黄化えそ病	発生量：やや多い ～多い (鹿行地域)	8月下旬現在，やや多い～多い発生である。発病株は早急に抜き取り，本病を媒介するアザミウマ類の防除を徹底する。
	タバココナジ ラミ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
抑制 キュウリ	タバココナジ ラミ	発生量：やや多い	8月下旬現在，やや多い発生である。
抑制ピーマン	うどんこ病	発生量：やや多い	8月下旬現在，やや多い発生である。
	斑点病	発生量：やや多い	8月下旬現在，やや多い発生である。
	タバココナジ ラミ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬ネギ	べと病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。なお，一部で多発生しているほ場も見られる。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
夏秋ナス	コナジラミ類	発生量：多い	8月下旬現在，平年より多い発生である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数（農業研究所）は平年並である。夏秋ナスでやや多い発生である。
野菜共通害虫 アブラナ科	ハイマダラノメイガ	発生量：平年並	8月下旬現在，誘致植物（クレオメ：園芸研究所）の寄生虫数は平年並である。

## 他県で発生が確認され、問題となっている新病害虫について

最近、他県において新たに発見された病害虫の中には、農作物に大きな被害をもたらし、問題となっているものも見られます。ここではそれら病害虫の中から、ウリ類退緑黄化ウイルスとニンジンに寄生するハネオレバ工類について紹介します。これらは、本県ではまだ発生が確認されていませんが、症状を見かけた時には病害虫防除所までご連絡ください。

### メロン退緑黄化病，キュウリ退緑黄化病

ウリ類退緑黄化ウイルスにより発病するウイルス病で、平成 19 年に（独）九州沖縄農業研究センターにより本ウイルスが確認されました。国内では九州地方の 7 県以外にも、愛媛県，埼玉県，群馬県，栃木県で発生が確認されています。

（症状等）はじめ葉に退緑の小斑点が生じ（写真 1），その後発病が進展すると，小斑点が拡大し，葉脈を残して葉全体が黄化します（写真 2）。葉の黄化は下位葉に顕著に見られ，上位葉には明確な病徴は見られません（写真 3）。葉が黄化するため草勢が低下し，メロンでは果実肥大不良や糖度の低下，キュウリでは収量の減少が認められます。

本ウイルスはタバココナジラミにより媒介されます。汁液伝染，種子伝染，土壌伝染はありませんが，接木伝染します。

（防除対策）本ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除を徹底して下さい。またタバココナジラミの生息場所となる雑草の除去も行って下さい。



写真 1 発病初期の退緑斑点症状



写真 2 葉の退緑症状



写真 3 発病株の症状

写真は群馬県農業技術センター提供

## ニンジンを加害するハネオレバエ類

国内では、ニンジンハネオレバエとキクノネハネオレバエの被害が確認されています。ニンジンハネオレバエは平成 16 年に青森県で、キクノネハネオレバエは平成 17 年に愛知県、平成 19 年に三重県で確認されています。どちらも幼虫がニンジンの根部に食入し、被害をおよぼします。食入は主に表面付近にとどまり、芯部まで食入することはほとんどありません。加害されたニンジンは、食入による被害痕が残るため（写真 4）、商品価値が大きく損なわれます。

（生態・特徴等）両種とも詳細な生態については、わかっていません。

### ・ニンジンハネオレバエ

成虫の体長が 5～6mm で、頭部に黒色三角紋様や胸部に 3 本の黒い縦線が見られます（写真 5）。幼虫は 6～8mm 内外、体色は乳白～淡黄色で、土壤中で蛹化します。青森県では、成虫が 5 月中旬～下旬にかけて発生し、幼虫による被害は、6 月中旬以降に顕著に現れます。

### ・キクノネハネオレバエ

成虫の体長が約 4mm で、体色は光沢のある黒緑色をしており、頭部は赤黄色をしています（写真 6）。幼虫は約 7mm で体色は黄色味を帯びています（写真 7）。幼虫の被害が、愛知県では 12 月、三重県では 1 月に確認されていることから、低温期に活動する可能性があります。

（防除対策）被害根等の収穫残渣は、ほ場内に残さず適正に処分して下さい。



写真4 キクノネハネオレバエによる被害  
（ニンジンハネオレバエも同様な症状となります）



写真5 ニンジンハネオレバエ成虫



写真6 キクノネハネオレバエ成虫



写真7 キクノネハネオレバエ幼虫

写真はニンジンハネオレバエが青森県病害虫防除所、キクノネハネオレバエが愛知県病害虫防除所提供

掲載している写真は当所ホームページでカラーでご覧になれます。



・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8月22日から9月21日)

気象庁(8月21日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[ 確率 ]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	40	40	20
降水量	関東甲信全域	40	40	20
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[ 概要 ]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べて晴れの日が多い見込みです。

< 1週目の予報 > 8月22日(土曜日)から8月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率60%

< 2週目の予報 > 8月29日(土曜日)から9月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

< 3週目から4週目の予報 > 9月5日(土曜日)から9月18日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

・ テレホンサービス(案)

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号: 029(226)5321

9月上旬 果樹, 野菜の害虫の発生と防除について

9月下旬 果樹, 野菜の病害の発生と防除について

**農薬を使用する際は**

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。